

## 令和5年度第2回山口県教育振興推進会議（概要）

日時：令和5年8月23日（水）13：00～15：00

場所：教育委員会室

### 議事 山口県教育振興基本計画の策定について

■資料 1-1、1-2、2-1、2-2、3 に基づき事務局より説明

■主な意見

「山口県教育振興基本計画」（最終案たたき台）（資料 1-2）について

- ・「(1) 人口減少・少子高齢化の進行」(P7) について、人口減少が進んでいく中で、子どもたちが誰一人取り残されない教育をしっかりと行っていくためにも、学校の適正な配置や学ぶ環境の整備は非常に重要。ICT 等を活用しながらしっかりと取り組んでもらいたい。
- ・「(4) 社会の多様化と子どもの権利利益の擁護」(P12) について、子どもの意見を酌み取った施策の展開が必要、とあるが、どのように意見を酌み取って施策に反映したのかがわかりやすく記載されると良い。子どもたちがこの計画を見たときに、“ここに君たちが出した意見が反映されているんだよ”というのわかりやすく記載されていれば、子どもたちも意見の出しがいがあると思ってくれるのではないか。
- ・「⑧教育 DX の推進」(P62～) について、DX とはダッシュボード等の道具をつくって終わりというのではなく、目的の達成のためにどのように道具を使っていくかという点が重要であり、そういう趣旨の記載に変更した方が良い。ただし、今後の方向性には、DX のキーワードとなる“教育モデルの質的な変革”や“新しい価値の創出”という記述があり、それらを通じて児童生徒の「学び方」と教員の「教え方」、教職員の「働き方」の改革を推進するという方向性は DX という言葉で表現して問題ない。
- ・「⑧教育 DX の推進」(P62～) について、非常に重要な施策であるが、デジタルになり得ない部分が新たな価値を生む土壌にもなると思うので、デジタルとアナログ両者の良いところをしっかりと取り入れながら進めて欲しい。
- ・「⑧教育 DX の推進」(P62～) について、教職員の ICT 活用指導力を向上させるにあたっては、教職員にも得手不得手があると思うので、学校における ICT 部門を積極的に外注するという方法も検討してみたいか。
- ・「⑪いじめ・不登校等の諸課題への取組の充実」(P71～) について、ステップアップルームの取組は成果を上げているという話を耳にするし、教育支援センター等に通えない子どもたちの受け皿にもなっていると思うので、ぜひ充実させて欲しい。
- ・「⑪いじめ・不登校等の諸課題への取組の充実」(P71～) について、保護者の方にいじめ防止対策推進法やそこに定義されているいじめについてしっかりと理解してもらうことが重要。保護者の方への周知にあたっては、PTA 等としっかりと連携し、保護者と地域とに十分理解してもらい、連携体制ができると良い。

- ・「⑪いじめ・不登校等の諸課題への取組の充実」(P71～)について、不登校児童生徒等の多様な教育機会の確保ということで、国において、小中学校においては一定の要件を満たせば家庭学習でも出席扱いにするということを発表しているが、そういった情報が各家庭に伝わっていないという状況がある。不登校の子どもたちが学校に行けないことで自己評価が下がらないよう、多様な教育機会の確保と併せて、その周知についてもしっかりとお願いしたい。
- ・「⑯部活動改革の推進」(P89～)について、文化部活動への対応もしっかりとお願いしたい。文化部活動は所属人数が少なく、市町単位での対応が難しいという話をよく耳にするので、市町をまたいで文化部活動に取り組める土壌づくりなど、市町だけでは限界がある部分を県にバックアップしてもらいたい。
- ・「㉓学校における働き方改革の推進」について、教職員の労働時間がかなり長時間になっているという状況を、地域をあげて解消していく必要があると思っている。それにあたっては、労働対価を適切に支払うことも含めて、国と一緒にしっかりと検討していってもらいたい。
- ・「㉔教員確保と教職員の資質能力の向上」について、山口県が求める教師像を踏まえ、先生方には豊かな社会性をしっかりと育てて欲しい。先生方にはもっと地域に入ってもらって、先生方に地域で活躍してもらおうような研修等があってもいいと思う。

#### 主な推進指標（資料 2-1）について

- ・「⑥乳幼児期における教育及び保育の充実」(P12～)について、「スタートカリキュラムの改善に向けて幼児教育施設との意見交換や合同の研究の機会などを設けている公立小学校の割合」の目標値 100%の達成にあたっては、何をもちてそれが推進されたかということが重要。まさに今「架け橋期のカリキュラム」を作成しているところだと思うので、そういったカリキュラムの策定状況等、具体的な文言を入れた推進指標としてはいかがか。
- ・「⑧教育 DX の推進」(P17～)について、DX まで踏み込んだ指標があると良い。「教育ダッシュボードで可視化した教育データを活用している学校の割合」を DX の推進指標とするという考え方は悪くないと思うので、学校の割合だけで評価するのではなく、子どもたちの満足度等も評価の視点として加えていくと良い。
- ・「⑧教育 DX の推進」(P17～)について、「教育ダッシュボードで可視化した教育データを活用している学校の割合」の目標値が 100%となっているが、教育ダッシュボードを構築し、子どもたちのデータを集め、フィードバックしていくまでに相当な時間や経費がかかると思う。100%という目標は高すぎるのではないか。
- ・「⑪いじめ・不登校等の諸課題への取組の充実」(P24～)について、本県でも数年前から認知件数を上げていくよう取り組んできていて、実際認知件数は上がってきている。まずはそれをしっかりと評価して、次のステップの解消率を上げていく方向へ繋げていくべき。
- ・「⑪いじめ・不登校等の諸課題への取組の充実」(P24～)について、いじめ解消率 100%を目指すことは問題ないが、重要なのは発生したいじめに早期に対応して、重大事態（特に 2 号）に移行させないということである。そういった視点での評価も

必要であると思う。

- ・「⑪いじめ・不登校等の諸課題への取組の充実」(P24～)について、不登校特例校の設置に対する対応や、別室(ステップアップルーム)登校への対応を、不登校に対する推進指標に加えてはいかがか。本県では別室登校に教員を配置し、子どもたちに対してしっかりと対応してくれていると認識している。
- ・「⑭地域連携教育の充実」(P33～)について、「学校・家庭・地域が連携して、子どもと地域の大人の協働的な学習活動を計画的・組織的に実施している学校の割合」の現状地が0.1%となっているが、本県はコミュニティ・スクールが100%となっていて、協働的な活動が組織化されていると認識していたが、こんなに低い現状なのか。